

2024年01月09日(火)【外為Lab】松田哲

タイトル:【事前に想定する】

元旦(2024年1月1日)の能登半島での大地震と津波の被害状況が、徐々に明らかになっています。

災害の発生がお正月だったこともあり、当初に想定した(想像した)被害よりも、格段に大きな被害状況であり、かつ、被害者の数も甚大だ、と感じます。

能登半島での頻発地震は、2、3年前から起こっていたことであり、個人的な感想ですが、国も県も、それに対する想定が甘かったのではないかと考えています。

能登半島が、半島であるが故に、幹線の道路が限定されており、迂回路がほとんどないために、物資の輸送に困ることは、事前に想定される範囲と考えます。

かつ、自衛隊隊員の派遣についても、最初は少ない人員で、毎日のように増員していることを見ても、事前に想定していなかったことが垣間見える、と考えます。

この地域の気象を考慮するならば、豪雪地帯であることは周知なのですから、このような災害が起これば、物資の輸送が難しいことや、被災者の防寒に対応せねばならないことも事前の想定範囲内なはずです。

+++++

その一方で、1月2日に発生した日本航空516便衝突炎上事故は、その対応が迅速だった、と感じます。

事故原因・要因は、今のところ、確定していないので、その評価や責任に関しては、現時点で判断すべきではない、と考えます。

しかし、事故の起きたC滑走路の修復は、昨日(2024年1月8日)既に完了して、利用可能に回復した、と発表されました。

この事故では、海保機の乗員に不幸があったものの、日本航空機の乗員乗客には、けががあっただけで、全員の命が守られたことは、奇跡であり、賞賛に値する、と考えます。

羽田飛行場の修復が迅速なのは、国や都が力を入れている(=必要に迫られている)からであり、かつ、事前に想定して、費用もかけているから、と考えます。

++++  
++++

少し「我田引水」な引用になってしまいますが、上記のようなことは、相場への対応にも当てはまる、と考えます。

「一事が万事」であり、何事も同じ、と考えます。

相場で起こることは、必ずしも事前には察知できないのですが、相場の全体を総覧するならば、様々なことが想定される、と考えます。

そして、その全てに対応できるとは思いませんが、事前に想定しておけば、相応に対処できる、と考えます。

++++

今年（2024年）は、日米欧の全てに、金融政策の変更が想定される、と考えます。

++++  
++++

（2024年01月09日東京時間15:05記述）